

金丸議員さんの質問にお答えします。

答弁（企画部長）

よって、市民の意向などの感覚的な検証は行わず、行政内部の資料として出来るだけ定量的に測れる指標により効果を分析し、今後の事務事業に反映するよう調査研究を行つたものです。

一般的に、合併の効果は、その成果が現れるには長期の期間を要するときれています。これは、各種統計データによる時系列の変化を分析することとや合併前後の社会経済情勢等の変化の影響を受けなくなくなるまでの期間が必要であるからです。しかし、あえて合併後四年という短い期間において今後のまちづくりの参考

一方、合併の根拠となつた新市建設計画については、目標年次が到来していいことや中間年度にも達していいことなどから検証を行つておらず、アルプス・プラン2005についても、合併協定書及び新市建設計画などを取り入れながら策定していることから調査対象としておりません。したがつて、合併に対し市民に説明責任を果たすには、新市建設計画の目標年次である平成二十四年度終了後に改めて合併協定書や新市建設計画の効果検証を行う必要があると考へています。

一般廃棄物処理 基本計画について

者が行うべき方策に對してその行動を行政が支援促進することとでごみの発生、排出抑制リサイクル、適正処分等が長期的に総合的に推進されることが目的としたものです。市では、この計画に基づいて合併からまだ各地区ごとに隔たりのあるごみ収集について統一化へ向けての事業を開始しましたところであります。その第一歩と致しまして、家庭でのごみの「分け方」と「出し」について統一を図る為、二十八年四月にごみ分別収集マニュアルを発行いたしました。それにつきましては、空き缶の収集につきましても違いがあつ

答弁（市民部長）

市では、これらも含めごみの実態ともいえる、時の様々なデータを利用しながら学校や団体などへの学習会の開催やCATVを利用するなどPRの拡大にも努めております。今後も市民への分別とリサイクル活動の推進などごみに関する意識の高揚が図られるよう、ごみを出さない工夫や分別排出などごみ減量化への更なる取組み強化と徹底によりごみ収集の完全統一化に対しまして早期実現を継続的に図つてまいりました。

平成十八年度に収集されたごみの量について申しますと総収集量は、一万七千二百六十六トンにのぼり、そのうち資源ごみは、二千九百七十七トンを収集致しました。中でも資源ごみは種類によっては有価物として売扱われ、その額は、千四百十一万九千五百六十円の収入となりました。これは市のごみ処理経費へと充てられ財源的にも大ききな一助となつておりますことは、多くの市民の皆さんへの努力とその成果によるものでござります。

結果を公表する 考えは？



南アルプス市民クラブ 12月定例市議会一般質問

(全文紹介)

金丸忠仁

第4号

発行:南アルプス市民クラブ
山梨県南アルプス市藤田1620-2
TEL/FAX:055-284-4175
Eメール:uc34in@bma.biglobe.ne.jp

答弁（副市長）

内部資料と考えておりますが、今後、整理をして公表して参ります。

がつてきたと思います。それでは担当部署も問題意識を持つており、平成十七年の二月に作られた南アルプス一般廃棄物処理基本計画の中特に「ゴミだしルールの統一化」「ゴミ処理実態のPR」を進めたといと明記したと思います。また、まちづくり懇談会の中でも市民部長はゴミの減量化を広く市民に訴えていますが市民意識を高める上からも「ゴミだしルールの統一化」「ゴミ処理実態のPR」を進めるべきと考えますがどのようになっているのか?

統一化を進めてまいりました。また、今年度から、可燃ごみ収集を市内南北に分けた市内二分割収集へと変更統一し、粗大ごみ収集につきましても、収集回数を見直し収集内容についてもスムーズな収集を行う為「可燃粗大」・「不燃粗大」に分けた収集日へと変更と統一を行つたところでござります。これら統一化へ向けては、平成十七年度より各地区区長環境美化員、地区役員の皆さんへ説明会を行いご理解とご協力を頂く中、統一事業を進めさせており、現在、各地域の収集において順調なごみ収集が成されておりますことは、まさに地域住民の皆さんとの分別排出と収集へ取組まれる日頃の意識の高まりがあればこそと思われます。